山梨の土地改良

VOL. 166 2017.1

第７回やまなし農村風景写真コンクール季節賞　渡辺　勝様「冬の光」撮影場所：富士吉田市

CONTENTS

新年のご挨拶　会長職務執行者・保坂　武――1
今年も「闘う土地改良」で全力　参議院議員・進藤金日子――2
新年の挨拶　山梨県農政部長・大熊規義――3
新年の挨拶　山梨県農政部耕地課長・福嶋一郎――4
第 39 回全国土地改良大会・石川大会――5
山梨県農業農村整備推進協議会　要請活動――6
平成 28 年度第２回土地改良区等役職員研修会――7
平成 28 年度第２回農業農村整備技術研修会――7
世界かんがい施設遺産登録――8
平成 28 年度監事会及び理事会の開催――8
農業農村整備の集い――9
平成 28 年度２次補正予算及び平成 29 年度予算の概算決定額――9
第 10 回やまなし農村風景写真コンクール入賞作品――10

新年のご挨拶

山梨県土地改良事業団体連合会
会長職務執行者　保坂　武

あけましておめでとうございます。平成２９年の輝かしい新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

会員並びに関係者の皆様には健に新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より本会の運営並びに農業農村整備事業の推進につきまして、格別のご支援とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

昨年は自然災害の多い年でした。熊本地方を中心とした“震度７”の大きな地震被害、８月には北海道、東北地方を何度も襲った台風被害と、多数の自然災害がありました。現在、復旧・復興が進められていますが道半ばと聞いております。早期の復旧・復興が望まれるところです。

我が国の農業・農村は超高齢化社会、本格的な人口減少社会の到来に伴う担い手の高齢化や減少、経済の国際化など重大な課題に直面しており、農業・農村の体質強化を図っていくことが強く求められています。

このような中、国におかれましては、攻めの農林水産業を展開し、成長産業を進めるとともに、美しく伝統ある農山漁村を次世代に継承し、夢と希望の持てる「農政新時代」を創造していくため、昨年８月に新たな土地改良長期計画を閣議決定し、農業農村整備事業のより一層の推進に取り組まれております。

この長期計画においては、「豊かで競争力のある農業」、「美しく活力ある農村」、「強くてしなやかな農業・農村」の３つの政策課題を掲げ、計画的かつ効果的に事業を進めていくこととしています。

また山梨県におかれましては、県政運営の基本方針である「ダイナミックやまなし総合計画」に基づき「新・やまなし農業大綱」を策定されました。大綱では、「地域の魅力の原動力『やまなし農業』」の実現に向けて、「高品質化・販路開拓による儲かる農業の展開」と「活気に満ちあふれた農山村の創造」の２つの目標を掲げ、農業の成長産業化や農山村の活性化を促進するとされています。

本会では国、県の農業施策を少しでも担うため、県内全域を整備した『水土里情報システム』を利用し農地の管理や防災・減災対策など幅広い分野に活用して県・市町村・土地改良区と一丸となり農業・農村整備事業を展開し『力強い農業・農村づくり』を目指していきたいと思います。

今後も、職員が一体となり、本会の業務運営に努力してまいりたいと考えておりますのでご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本県農業の発展と皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ年頭の挨拶と致します。

本年も「闘う土地改良」で全力

参議院議員　進藤金日子（かねひこ）

あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

私は、皆様のご支援をいただき、現在、参議院議員として国政に参画いたしております。土地改良に関係する方々が心を一つにしていただいた昨夏の結果を胸に刻み、今年も皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいります。

昨年は、本当に災害の多い年でした。４月の熊本地震被害、８月の北海道・東北を中心とした台風被害などがありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に全力を尽していく必要があります。勿論、東日本大震災や原子力災害への対応についても、引き続きしっかりと対応していくことが重要です。また、気候変動等に起因すると思われる豪雨災害等が頻発していることを踏まえ、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題となっており、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していく必要があります。

土地改良にとって本年は、制度的にも予算的にも極めて重要な年となります。

まず制度です。第一に昨年８月に閣議決定された土地改良長期計画実動の初年であり、目標達成に向けて確実に所要の成果を確保していく必要があります。第二に昨年１１月に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」と新たに策定された「農業競争力強化プログラム」に基づき、着実に施策を実施していく必要があります。特に、「農業競争力強化プログラム」は、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力のみでは解決できない構造的な問題を解決するため、１３項目にわたる課題に対する取組みの道筋を示し、その実行により農業者の所得向上を図ろうとするものです。土地改良については、土地改良制度の見直しとして、農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業制度創設の他、国・都道府県営土地改良事業に係る申請人数要件（１５人以上）の廃止、突発事故に係る事業やため池等の耐震化事業について原則農業者の費用負担や同意なしに事業実施が可能となる仕組みの創設、一定の機能向上を伴う更新事業について同意徴集手続を簡素化する見直しなどが盛り込まれています。これらは、今後、土地改良法を改正した上で順次実行されていくことになります。

次に予算です。今年度補正予算で大幅な追加がなされ、更に平成２９年度予算政府案においても着実に予算が回復してまいりました。補正予算は、基本的に予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待をしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。

山梨県におかれましても、農業・農村は高齢化の加速や著しい人口減少、それに伴う担い手不足等厳し現状にあると聞いております。

そのような中、県政運営の基本方針である「ダイナミックやまなし総合計画」に基づき、平成２７年に「新・やまなし農業大綱」が策定され、「地域の魅力の原動力『やまなしの農業』」の実現に向けて

・高品質化・販路開拓による儲かる農業の展開

・活気に満ちあふれた農山村の創造

と２つの目標を掲げ、農業の成長産業化や農山村の活性化を促進することされています。

目標達成に向けて、競争力を高める農地の集積・集約化や防災・減災対策など、農業基盤の整備を農業農村整備関係予算を活用し計画的に実施することが不可欠と考えます。山梨県農業が将来にわたって持続的に発展することを切に願っています。

往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいましょう。私も、引き続き「闘う土地改良」の先頭に立って全力を尽くし、皆様と一緒になって諸課題の解決に向けて専心努力してまいる覚悟です。今年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

新年の挨拶

山梨県農政部長　大熊　規義

新年おめでとうございます。

土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また日頃より県農政の推進に格段の御理解と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、多くの生命や財産を奪った４月の熊本地震や８月に東北、北海道を襲った台風による豪雨災害など多くの自然災害が発生し、あらためて自然の脅威を思い知らされた１年でした。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

一方、８月にはブラジル、リオデジャネイロで開催されたオリンピック・パラリンピックにおいて、オリンピック日本代表選手団が過去最多となるメダルを獲得するといった明るい話題もありました。本県関係の代表選手も、競泳男子自由形 800 メートルリレーで銅メダルを獲得した江原騎士選手を始め、出場された選手の活躍が県民に多くの感動を与えてくれました。このことは、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて弾みがついたと思います。

県においても、東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、県政運営の基本指針となる「ダイナミックやまなし総合計画」の農業の部門計画として、平成 27 年 12 月に「新・やまなし農業大綱」を策定し、この大綱には東京オリンピック・パラリンピック開催までの５年間に実施する施策・事業の内容や工程等を盛り込んでおり、本年は「計画加速の年」とし、本県農業を成長産業へ導くための取り組みを積極的に進めることとしております。

この大綱に盛り込まれた取り組みを進めるための土台となる生産基盤を整備する農業農村整備事業につきましては、農業の競争力を高める基盤整備と併せ、農村地域の防災・減災対策を進めるための施設整備などを着実に推進して参ります。

また、農業農村整備以外の分野では、新たな取組として、海外において、果実をはじめワイン、日本酒、観光など本県の魅力を、年間を通じて総合的に発信するため、昨年７月にシンガポールに、８月にはマレーシアに、常設の販売・情報発信拠点を設置しました。今後は、両拠点での本県の魅力発信を強化し、更なる農産物の輸出拡大などを図っていきます。

本年も、「やまなし農業」を元気にし、農業を成長産業に導くため、大綱に盛り込んだ戦略的な取り組みに積極果敢にチャレンジして参りますので、皆様からの一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山梨県土地改良事業団体連合会の益々の御発展と本年が皆様にとりまして希望に満ちた幸多い年となりますよう心より御祈念申し上げまして、年頭の御挨拶といたします。

新年の挨拶

山梨県農政部耕地課長　福嶋　一郎

明けましておめでとうございます。

山梨県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、常日頃より、農業農村整備事業の推進にあたりまして、多くのお力添えをいただいておりますことに心より御礼申し上げます。

まず最初に、本県の農業農村整備に関連した喜ばしい話題をご紹介させていただきます。昨年 11 月８日にタイ王国チェンマイで開催された国際かんがい排水委員会理事会において、北杜市の村山六ヶ村堰土地改良区が管理する「村山六ヶ村堰疎水」が県内で初めて、世界かんがい施設遺産として登録されることが決定しました。世界かんがい施設遺産は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するための制度で、「村山六ヶ村堰疎水」は、築造後、千年の歴史があり、多様な水路形式を用いた卓越した技術などが評価されました。村山六ヶ村堰土地改良区、北杜市役所の皆様に敬意を表するとともに、認証・登録を心よりお祝い申し上げます。

次に、昨今の農業農村整備事業に関する国の動きに触れさせていただきます。昨年８月に「新たな土地改良長期計画」が閣議決定されました。この計画では、三つの政策課題を掲げております。一つ目は「豊かで競争力ある農業（産業政策）」として、自立した農業経営の実現と産地の収益力向上を図るため、本計画期間のＫＰＩ等を明確にしつつ進捗の管理に努め、その達成に必要な施策を集中的に講ずること、二つ目は「美しく活力ある農村（地域施策）」として、地域資源の保全管理の質と持続性の向上と快適で豊かな地域社会の構築を図るため、土地改良事業を基本としつつ、多面的機能支払制度や農村の生活基盤の保全管理を含む施策を講ずること、三つ目は、「強くてしなやかな農業・農村（国土強靱化）」として、産業政策と地域政策の土台となる基盤の将来にわたる機能の継承と地域防災・減災力の向上を図るために必要な施策を効率的に講ずることとしております。

また、この長期計画の中では、農業・農村の構造変化を踏まえ、土地改良制度のあり方を検討することとしており、その具体が昨年 11 月に決定された「農業競争力強化プログラム」で示されました。例えば、ほ場整備事業を実施するにあたり、農地中間管理機構が借り入れている農地について、農業者からの申請によらず、都道府県営事業として、農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業を実施できる制度の創設などが盛り込まれております。この制度改正は、農業農村整備事業の大きな転換になります。今後も検討過程を注視し、これらの動きにしっかりと対応できるよう、皆様方と情報共有を図っていきたいと考えております。

最後に、農業農村整備事業の予算についてであります。国の農業農村整備事業予算も、平成 28 年度補正予算と平成 29 年度当初予算を合わせると約 5,772 億円となり、大幅削減前の平成 21 年度の水準まで回復しました。このことは、貴会役員の皆様の力強い要請活動のおかげであり、ここに厚く御礼を申し上げます。県と致しましても、しっかりと予算が確保できるよう取り組んで参りますので、引き続き御協力をお願いする次第であります。

第39回
全国土地改良大会
石川大会

水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ

―伝えよう水土里の歴史を あえの風にのせて―

第 39 回全国土地改良大会石川大会が 10 月 25 日、石川県金沢市 いしかわ総合スポーツセンターにおいて開催されました。加賀百万石とも称される、国内有数の城下町として栄えた金沢市で行われた今大会は、「水土里の明日を築く土地改良 今こそ未来へつなぐ」を大会テーマに掲げ、全国から約 4,300 名を超える土地改良関係者が参集して行われました。本県からは土地改良区、市、県、本会から 50 名が参加しました。

開会に先立ち、石川県の映像紹介、金沢市出身の吉田姉妹による民謡披露、石川県無形民俗文化財である「加賀鳶」が披露され、式典は大変優美で華やかな幕開けとなりました。開会宣言の後、開催県挨拶として石川県土地改良事業団体連合会西村徹会長より歓迎の言葉と、今大会が有意義となることを祈念する旨の挨拶を頂きました。また、全国土地改良事業団体連合会二階俊博会長より農業農村整備事業の推進、予算確保に向け皆で邁進しようと、力強い挨拶を頂きました。石川県谷本正憲知事、金沢市山野之義市長の歓迎のことばの中では、開催地の魅力を伝えて頂くとともに、土地改良事業の重要性について語られました。その後、農林水産省礒崎陽輔副大臣、都道府県土地改良事業団体連合会会長会議進藤金日子顧問より来賓祝辞を頂きました。

続いて土地改良事業功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名、農林水産省農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰 46 名が表彰されました。本県からは、土地改良事業に対する長年の功績が認められ、農村振興局長表彰に山梨県土地改良事業団体連合会 戸澤正彦総括監が、全国土地改良事業団体連合会長表彰に明野茅ヶ岳土地改良区 馬場君忠筆頭理事が受賞の栄誉に浴されました。

基調講演、北陸の優良地区事例紹介に続き、石川県立大学の学生により大会宣言が読み上げられ、参集者は改めて農地、農業用施設を確実に次世代へ引き継ごうと一丸となりました。

最後に次期開催県の静岡県土地改良事業団体連合会伊東真英会長へ大会旗が引き継がれ、大会は成功裏に終了しました。第 40 回土地改良大会は平成 29 年 10 月 25 日に沼津市で開催されます。

二階俊博全土連会長挨拶

農村振興局長表彰　戸澤正彦総括監

進藤金日子都道府県水土里ネット会長会議顧問

全土連会長表彰　馬場君忠筆頭理事

山梨県農業農村整備推進協議会要請活動

山梨県農業農村整備推進協議会（会長白倉政司）は 11 月 21 日農業農村整備事業関係の平成 29 年度当初予算等の要請活動を行いました。

県選出の中谷真一、宮川典子、堀内詔子衆議院議員、赤池誠章参議院議員に要請を行った後、自民党茂木敏充政務調査会長、細田博之総務会長、二階俊博幹事長（全土連会長）に当協議会白倉政司会長より要請書を手渡しました。農林水産省では、山本有二農水大臣を訪れ、平成 29 年度農業農村整備事業関係予算の十分な確保、中山間地域における農村生活環境基盤整備への支援の必要性を訴え、白倉会長が要請書を手渡しました。これらの要請に対し山本大臣は、「農業農村整備事業当初予算の確保は重要項目であり予算確保に向け努力していく。中山間の農村生活環境基盤整備等の制度について検討する」と回答を頂きました。財務省では、岩元達弘主計官に平成 29 年度当初予算確保の重要性を強く要請しました。また、衆議院議員第二議員会館会議室において公明党、石田祝稔政務調査会長、竹谷とし子参議院議員、輿水恵一衆議院議員に要請活動を行いました。

11 月 15 日には山梨県後藤斎知事を訪れ要請活動を行いました。要請では、中山間地域の農村生活基盤整備と農業生産基盤整備を総合的に実施できる補助事業の創設を国に対して要望しているので、県においても趣旨にご理解いただき支援をお願いしました。

要 請 書 要 旨

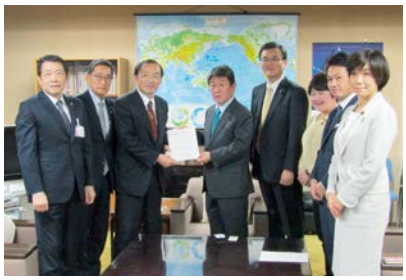
○平成２９年度農業農村整備事業関係予算の十分な確保について
○中山間地域の農村生活環境基盤整備への支援について

山梨県 後藤斎知事へ

自民党 二階俊博幹事長へ

山本有二農水大臣へ

自民党 細田博之総務会長へ



自民党 茂木敏充政務調査会長へ

財務省 岩元達弘主計官へ

平成 28 年度第2回土地改良区等役職員研修会

11 月 25 日山梨県自治会館 2 階研修室において、平成 28 年度第 2 回土地改良区等役職員研修会を開催しました。

研修会には、土地改良区等の役職員など総勢５５名が出席しました。

主催者挨拶として、当会加藤啓専務理事が日頃のご支援と研修会参加への御礼を述べ、続いて山梨県農政部耕地課福嶋一郎課長より来賓の挨拶を頂きました。

研修は、山梨県農政部耕地課指導管理担当鷲尾久美子副主査より「土地改良区の現状と課題」と題し土地改良区の組織、役員の役割等に加え、土地改良区で起きている不祥事について事例を交えながら防止対策に向け、詳細な説明が行われました。

続いて農林水産省関東農政局土地改良技術事務所保全技術課髙橋勲課長が「農業水利施設のストックマネジメントについて」と題し、ストックマネジメントの概要や制度、コンクリート開水路やパイプラインの長寿命化対策についての講演を頂きました。

これらの講演は現在、土地改良区が直面している重要な課題であり、今後の実務の参考となる研修会となりました。

髙橋勲課長　講演

平成２８年度　第２回農業農村整備技術研修会

１１月２９日山梨県自治会館講堂において、平成２８年度第２回農業農村整備技術研修会を開催しました。

この研修会には農業農村整備事業に携わる関係者（県、市町村、土地改良区、建設業協会、土地改良技術協会、土地連職員等）250 名が参加しました。

主催団体の会長挨拶の後、来賓として農政部耕地課福嶋一郎課長の挨拶を頂きました。

講演では、山梨県農政部耕地課茂手木知課長補佐から「農業農村整備事業を取り巻く状況」と題し、平成２８年８月に閣議決定された新たな土地改良長期計画について、農業農村整備事業予算の推移、地方公共団体の総職員数の推移等について詳細な説明がありました。続いて農政部耕地課古屋泉技術指導監から「農業農村整備事業と農地中間管理機構の関わりについて」と題し、農地中間管理機構の仕組や事業のメリットについて、また北杜市農地環境整備事業天王原地区の事例紹介を交えて講演を頂きました。最後に農政部耕地課一ノ瀬千玄副主幹より新しい施工パッケージ型積算方法について講演を頂きました。

この研修で農業農村整備事業関係者の今後の業務に生かされればと思います。

土地連加藤専務理事 挨拶

古屋泉技術指導監 講演

世界かんがい施設遺産登録　～村山六ヶ村堰疏水（村山六ヶ村堰土地改良区）～

国際かんがい排水委員会（ICID）は、平成２８年１１月８日にタイ王国チェンマイで開催された理事会において村山六ヶ村堰疏水（村山六ヶ村堰土地改良区）が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。今年で３回目の選定で、本年度は日本国内で１４施設が登録され、日本国内の登録は２７施設になり、山梨県内においては初めての登録となりました。

１２月１４日には、農林水産省において国際かんがい排水委員会の伝達式が行われ、登録証と記念楯が村山六ヶ村堰土地改良区大塚勝雄理事長に授与されました。

この「世界かんがい施設遺産」は、国際かんがい排水委員会が、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資することを目的として、建設から１００年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設された等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を登録・表彰するものです。

村山六ヶ村堰疏水は、西暦９００～１０００年頃整備されたとされ、八ヶ岳南麓の千条の滝や吐竜の滝を主な源流とし、北杜市の南北を約１６km にわたって流れ、かんがい用水として受益面積約５５０ha を潤しており、現在は地元住民らが保全管理をしています。

また、平成１０年に管理状況や、文化的価値などが評価され農林水産省の「疏水百選」にも選ばれました。毎年１０月には、地元住民、地元小学生等を対象に、村山六ヶ村堰疏水の歴史・機能・地域の環境保全に資する役割等を学ぶ「水の道を歩く集い」を開催しています。

村山六ヶ村堰疏水 村山六ヶ村堰土地改良区 提供

「水の道を歩く集い」

吐流の滝にて

平成 28 年度山梨県土地改良事業団体連合会監事会及び理事会の開催

監事会・監査会は 10 月 14 日土地連役員室で、理事会は 10 月 21 日「ホテルやまなみ」で開催されました。監事会では、

- **平成２８年度監事会及び監査の計画について**
- **この会と理事の契約について（利益相反）**

以上の２議案が承認されました。

続いての監査会では、

- **平成２７年事業報告・収入支出決算について**
- **平成２８年度事業の執行状況並びに会計経理の状況について**

説明の後、証憑書類等の監査を行い、いずれも承認されました。

また理事会では、白倉政司会長が議長に選出され議事を進行。議事では、

- **平成２７年度事業報告・収入支出決算並びに財産目録について**
- **平成２８年度事業並びに収入支出中間報告について**
- **諸規定の一部改正について**

３議案が監査報告の後満場一致で承認されました。

理事会終了後、全国土地改良事業団体連合会会長会議進藤金日子顧問（参議院議員）が国会等の忙しい中お祝いに駆けつけてくださり、自身の国会での活動（参議院農林水産委員）や平成２９年度農業農村整備事業予算等の報告を頂きました。

監事会の様子

理事会にて進藤議員挨拶

農業農村整備の集い ～農を守り、地方を創る予算の確保に向けて～

11 月 28 日､東京都平河町砂防会館シェーンバッハ･サボーにおいて、全国土地改良事業団体連合会及び都道府県土地改良事業団体連合会の主催で『農業農村整備の集い』が開催されました。山梨からは土地改良区理事長等 24 名が出席しました。

また、与野党問わず多くの国会議員を含め、全国より農業農村整備に携わる関係者 1,200 名が参集し、それぞれの現場で直面している喫緊の課題を解決するため、平成 29 年度農業農村整備事業の当初予算確保の重要性を確認しました。

二階俊博全土連会長は主催者の挨拶の中で、災害で被災された方々へのお見舞いのことばを述べると共に「当初予算枠の獲得が重要」であると強調しました。

続いて、山本有二農林水産大臣、西川公也農林水産戦略調査会長、進藤金日子都道府県土連会長会議顧問も農業農村整備予算の確保に尽力することを挨拶で表明し、今村雅弘復興大臣が被災農地の復旧・復興状況を説明しました。

事例発表では、３土地改良区から土地改良区の特徴、課題等についての発表があり、更なる補助事業の充実と予算の確保について訴えました。

要請案文は全会一致で採択され、最後に三好愛知県土地改良事業団体連合会長の音頭で、ガンバロウ三唱を行い予算確保へ一致団結することを誓って、集いは盛会裏に終了し、その後、国会議員等、農業農村整備事業の関係へ向けて要請活動を行いました。

山本有二農水大臣

二階俊博会長

山梨県からの参加者

農業農村整備関係の平成２８年度２次補正予算及び平成２９年度予算の概算決定額

12 月 22 日、閣議において、農業の競争力強化に向けた経済対策の実行に向け、平成 29 年度予算が概算決定され、農林水産省の予算総額は対前年比 105.2%、23,0718 億円、このうち、農業農村整備関係予算は対前年比 106.5%、4,020 億円となりました。

平成 29 年度農業農村整備事業予算概算額は、平２８年度第２次補正追加予算と併せ 5,772 億円となり、民主党政権で大幅に削減された以前の平成２１年度の水準となりました。

国の農業農村整備事業に係る関係者が財務省、農林水産省、政府与党、国会議員に要請活動を行った成果と思います。

農業農村整備関係予算

（単位：億円）

区分	28 年度 当初予算額	29 年度 概算決定額 A	(28 年度第２次補正追加額) 補正額 B	A ＋ B
農業農村整備事業	2,962 -	3,084 (104.1%)	1,580 -	4,664 (157.4%)
農山漁村地域整備交付金 (農業農村整備分)	735 -	701 (95.3%)	- -	701 (95.3%)
農地耕作条件改善事業 (非公共)	123 -	236 (192.0%)	172 -	408 (332,1%)
計	3,820 -	4,020 (106.5%)	1,752 -	5,772 (151.1%)

主要予算総括表

（単位：億円）

事項	28 年度 当初予算額	28 年度 第２次補正 予算額	29 年度 予算 概算決定額	対前年度比(%)
公共事業	4,143	1,996	4,215	101.7
農業農村整備事業	2,962	1,580	3,084	104.1
農山漁村地域整備交付金	1,067	-	1,017	95.3
海岸事業	33	-	33	100.0
災害復旧事業等	82	416	82	100.0
非公共事業	1,215	215	1,340	110.4
計	5,358	2,211	5,555	103.7

(注) 計数は四捨五入のため、端数において合計と一致しないものがある。

第10回
やまなし農村風景写真コンクール入賞作品

「活気に満ちあふれた農山村」をテーマに、やまなし農村風景写真を募集したところ、風情ある農村の四季の他、賑やかで活気のある農村の暮らしや伝統の祭り、歓喜あふれる収穫の表情や農作業中の微笑ましい家族団らんの情景などの作品、総計６０８点の応募があり厳正な審査の結果、知事賞をはじめ入選作１７点が決定しました。入賞作品は、山梨県農政部耕地課のHPに掲載しています。

■山梨県知事賞　「富士より高く」
中村知子様（中央市）　撮影場所：甲斐市

■農政部長賞　「とった～」
熊王広幸様（甲府市）　撮影場所：北杜市

■審査委員長賞　「大好きなぶどう」
金子卓司様（都留市）　撮影場所：甲州市

■富士山賞　「忍野の春」
花輪富夫様（南アルプス市）
撮影場所：忍野村

第１０回やまなし農村風景写真コンクール受賞者

賞	受賞者	住所	作品名
季節賞（春）	星野　郁男	上野原市	春の息吹
季節賞（夏）	内藤　　均	南アルプス市	果実収穫の頃
季節賞（秋）	大柴　　力	韮崎市	今年も豊作
季節賞（冬）	河西　茂彦	南アルプス市	冬に咲く
入　選	能川　慎弥	川崎市	春陽の下で
入　選	鈴木　　定	相模原市	棚田の朝
入　選	小林　秀次	笛吹市	枯露柿の季節
入　選	小尾　　明	甲府市	佳き日、花に囲まれて
入　選	志村　茂雄	笛吹市	お田植のあと
入　選	木谷　昌経	市川三郷町	茜色に染まる
入　選	藤巻　正英	南アルプス市	見守る人
入　選	岡田　泰文	甲斐市	白い大地

※敬称は略させていただきました。※入選は受付順位となります。

新年の御挨拶

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

平成29年 元旦

山梨県土地改良事業団体連合会
（水土里ネットやまなし）

会長職務執行者	甲斐市長	保坂　武				
副会長	甲州市長	田辺　篤				
専務理事	学識経験者	加藤　啓				
理事	中央市長	田中　久雄		都留市長	堀内　富久	
	山梨市長	望月　清賢		韮崎市長	内藤　久夫	
	市川三郷町長	久保　眞一		丹波山村長	岡部　政幸	
総括監事	徳島堰土地改良区理事長	野田　正資				
監事	上野原土地改良区理事長	奈良　明彦				
	楯無堰土地改良区理事長	今村　正城				
総括監	戸澤　正彦					
参事	山根　正人					
	他職員一同					

技術力向上への取り組み

「土地改良換地士」本会から３名が合格！

本会では、職員の資格取得への意欲向上を図ると共に、職場内での勉強会の開催を通して、技術力向上に努めております。今年度は土地改良換地士に本会から３名の職員が合格しました。今後も会員の信頼と成果品の品質の確保を図るため、各種の資格取得に務めて参ります。

土地改良換地士　戸澤　正彦
熊王　広幸
橘田　昌裕

行事予定表

2/17　土地連　監事会・監査会　土地連役員室
2/24　土地連　理事会　セレス甲府
3/28　山梨県土地改良事業団体連合会第59回総会
自治会館講堂

農業農村整備事業は
● 調査設計・測量
● 換地確定測量
● 農業集落排水事業（ストックマネジメント）
● 水土里情報システム

山梨県土地改良事業団体連合会へ
建設コンサル登録：農業土木部門

水土里ネットやまなし
山梨の土地改良 VOL.166
発行：平成29年1月

発行者：山梨県土地改良事業団体連合会
〒400-8587 山梨県甲府市蓬沢1丁目15番35号 自治会館5階
TEL 055-235-3653　FAX 055-228-8174
URL：http://www.yamanashi-doren.or.jp
E-mail：syomu@yamanashi-doren.or.jp

GREEN PRINTING JFPI P-B10002
VOC FREE
VEGETABLE OIL INK
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C023103